



竜北中学校3年1組
担任 上田知徳先生



竜北中学校3年2組
担任 有働史子先生



特別支援学級
担任 三隅真由美先生



氷川中学校3年1組
担任 吉田浩二先生



氷川中学校3年2組
担任 北岡愛子先生

平成26年 氷川町成人式 感謝と大人の自覚を胸に 新成人が新たなステージへ旅立つ

1月3日、文化センターにおいて、平成26年氷川町成人式が行われ、新成人117人(対象者145人)が出席しました。新成人代表による実行委員がこの日までに準備を進め、運営されたこの成人式では、中学校卒業記念のDVD上映をオープニングイベントに、藤本町長による式辞や恩師によるスピーチ、新成人代表による誓いの言葉の発表などが滞りなく行われ、式の最後には、いきものがかりの「ありがとう」を全員で合唱し、歌とともに感謝の気持ちが伝えられました。式終了後は恩師や級友との再会に笑顔で話し合い、記念写真を撮り合うなど、晴れやかな門出となりました。

新成人代表から力強い誓いの言葉 恩師からは温かいメッセージが伝えられました



新成人「誓いの言葉」

北川 宮村 昇吾

今ここにいる117名は、成人という人生の大きな節目を迎え、社会人としての決意を新たにしていることでしょうか。

私は現在、熊本保健科学大学にて、作業療法士を目指して、学んでおります。現場施設での実習において私が感じたことは、体の不自由さはもちろん、心の病を持った患者さんが多いということですね。

その背景には人間関係の複雑化や地域社会のつながりの希薄化といった、現代社会の抱えるさまざまな問題があるのではないのでしょうか。

そのような患者さん方に、生きがいを持って社会復帰してもらうために、作業療法士として何が出来るのか探究する毎日です。同時に身近な人が、こ

のような病にかからないようにも、一人の人間としてどのようにあるべきか考えさせられます。

私たちはこれからそれぞれの道を歩む中で、さまざまな経験をしていきます。嬉しい事、楽しい事、時には辛く悲しいことも、たくさん待っているでしょう。

しかし、私たちは一人ではありません。これまでにお世話になった先生、地域の方々、家族、そしてここに共に青春時代を過ごした仲間がいます。

このつながりを大切に、どのような時も互いに助け合いながら、さまざまな困難を乗り越えていきたいと思います。また、これらのつながりを一人一人大切にすることが、地域社会のつながりをも深めていくことにつながるのではないかと私は考えます。

最後にこの氷川町に生まれたことに、心より感謝しながら、社会の一員として自信と誇りを持って、恩返しができるよう、貢献できるよう、日々努力していくことを誓い、新成人代表のあいさつとさせていただきます。

新成人の皆さん「Do you have a dream?」

3年生の時の学習発表会を覚えていますか。アメリカ公民権運動の指導者のマーティン・ルーサー・キングジュニアの演説を英語で熱演してくれました。「I have a dream」というスピーチです。

今日この場所にいらつしやる皆さんは、きっと夢と希望いっぱいこの日を迎えられたことと思います。

夢を持つということは自分に課題を課して、夢をかなえるために、それに向かっていろんな障害があるものに、立ち向かっていく努力と覚悟が必要だと思えます。これから皆さんの人生が夢いっぱいのものでありますようにお祈りしています。そして、さらにはその夢が自分自身のためだけでなく、キング牧師の様に周りの人びとを幸せにするような夢でありますように祈っています。

変わった人もいますが、変わらずそのままの人もいて、懐かしさが込み上げてきています。この成人式をいい機会として、ぜひ、これまで支えていただいたご家族の方へ感謝の言葉を伝えていただけたらと思います。

元旦の新聞記事にイチロー選手の記事が載っていました。20代のころから、妻の手作りの料理を繰り返し食べて、同じ練習を繰り返し、20年間毎日行っている。「繰り返しへの耐性」を改めて学びました。

これから社会人として、いろんな壁にぶつかった時に、忍耐力、忍耐という言葉を胸に刻みながら頑張る、大きな夢を、大きく成し遂げてもらいたいと思います。

元気な新成人の皆さまを見ていると、無限の可能性を秘めている気がします。20歳のころは、いろんな経験をしたほうが、その後の人生が豊かになって良いと思います。私が20歳のことを思い返すと、学年が1つ遅れることや、就職が1年遅れることを悩んだこともありますが、今考えてみると、いろんな経験をjして、いろんな人と出会って、何か行動をしていけば、決して無駄な1年2年ではないという風に思います。

いろんな悩みも出てくると思いますが、悩み、壁はどこかで打ち破ることが出来ます。ぜひ、何か壁にぶつかった時、いつか通る事ができる壁だと思つて、その先に続く道へと、力強く歩んで行つてくれたらと思います。

今まで出会った人、これから出会う人に感謝をしながら、力強く、今後の人生を歩んで行つてください。

8年前、皆さんが入学した時にたんぼぼ学級ができました。しばらくの間は毎日が手探りで何が何かわからない、心探りの状態が続きました。そんな時、私たちの心の架け橋として働きかけていただいたのが、皆さんです。

それがきっかけとなって、その後もさまざまな事情から障害を持たれた人との生活、仕事が続きました。そんな中で私自身も色々と大切なことを学びました。

一つ目にみんな自立を目指しているということ。障害がある無しにかかわらず、前に向かって進んでいる。そのため努力を怠っていないということに気が付きました。

二つ目は周りの人の支援や助言が必要な時に細やかなことに対して、とても素直に受け入れて、成し遂げようと努力する。あるいは必ず感謝の言葉を添えることです。

皆さんはこれから、人生の長い第2ステージを迎えられます。自分が成長するために、自分磨きをして励んでほしいと思います。

会場に入る前に、卒業生の皆さんの姿を見て、こんなに立派に成長したんだなと思いました。

立派に成長した皆さんの礎となる中学校3年間を、共に過ごせたことを誇りに思っています。

昨年の11月に日本体育大学の集団行動の最終合宿が松橋で行われました。

監督の先生と学生80人と話す機会があったのですが、そこで学生が教えてくれたのが、感謝という言葉です。

すべての感謝をする意味で、全ての学生が毎日会うたびに、私に感謝の言葉を掛けてくれました。

そこで思い出したことは大事なことは簡単なことだということ。難しいことは今後いろいろな事だと思えます。これから長い人生だと思えますので、簡単なことを、精一杯全力で頑張りたいと思います。